

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人ふくてっく

②評価調査者研修番号

SK18235
SK18234
SK18232
1201C028（大阪府）
1801C022（大阪府）

③施設名等

名称：	同朋学園
施設長氏名：	梅木澄代
定員：	32名
所在地(都道府県)：	兵庫県
所在地(市町村以下)：	神戸市灘区篠原北町4丁目8番1号（建替え工事中、4か所に分散）
T E L：	078-801-6301
U R L：	http://dohogakuen.doho.or.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1972/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人同朋学園
職員数 常勤職員：	27名
職員数 非常勤職員：	11名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	13名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士（うち管理栄養士1名）
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（エ）	調理師
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（オ）	医師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	3名
施設設備の概要（ア）居室数：	4か所のホーム（各8名定員）に分散
施設設備の概要（イ）設備等：	仮設厨房・食堂 59.47㎡
施設設備の概要（ウ）：	仮設事務所（同朋保育園東園舎1階）
施設設備の概要（エ）：	遊戯治療室（2階建て一軒家1階部分）70.38㎡

④理念・基本方針

【理念】
同朋福祉会創設者 江川義清の「人は大切 子は宝」の理念のもと、家庭で養育することの出来ない児童を保護する中で、人間尊重と子ども第一主義を目指して児童の最善の利益を追求し、積極的に福祉の増進を図ります。
【基本方針】
1. より家庭に近いやすらかな環境で安心してゆったりと過ごせる雰囲気作りを心掛け、子どもたちの心の安定を図ります。
2. 子どもたち個々の特性を配慮した関わりを心掛け、子どもたちが自信を持ち、意欲的な生活ができるよう支援します。
3. 子どもたちの思いを十分に聴き取り、子どもたちが主体的に自己選択する力を持てるよう支援します。
4. 子どもたちの自由とプライバシーが護られるよう配慮しながら、集団生活や地域社会との関わりを体験する機会を心掛け、社会性を養います。
5. 保護者への細やかな関わりを心掛け、子どもたちの円滑な家庭復帰を図ります。
6. 子どもたちとの生活に対する積極的な熱意と、体罰に依らない処遇能力を有する職員との関わりの中で、人への愛着心や信頼関係を育みます。

⑤施設の特徴的な取組

<p>出会う人・出会うことすべてに意味があると思っています。私達に出来ることは心を込めてさせていただきたいと思います。初代の思い「人は大切 子は宝」の実践を心掛けてまいります。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/4/25
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2019/7/24
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成 28年度

⑦総評

同朋学園では、施設の建替え事業が進行中で、定員を32名に減じたうえで、4か所に分散してグループケアを実施しています。来春の新施設完成では、小規模ユニット化が実現しますが、これに先んじて小グループの処遇が実践されています。そのことに伴う負担も随所に見られ、いくつかの課題が指摘されるのですが、新園舎で始まる小規模ユニットケアに向けた改革的取組に、鋭意取り組んでいる状況です。

【特に評価できる点】

- ◆施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにするとともに、施設建て替え事業に伴って発生する様々な課題の克服に、強いリーダーシップを発揮しています。
- ◆子どもと地域の交流を広げるための取組を行っています。
- ◆地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っています。
- ◆子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に。子どもが自ら判断して行動することを保障しています。
- ◆生活の営みを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援しています。
- ◆おいしく楽しみながら食事ができるように工夫しています。
- ◆衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援しています。
- ◆施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立しています。

【改善を求める点】

- ◆職員一人ひとりの育成に向けた取組が求められます。
- ◆子どもの権利擁護に関する取組の徹底が求められます。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価受審を終えて

7月24日、全職員対象に受審機関から項目に沿って「評価結果報告会」を実施していただきました。報告会では評価基準の項目に沿って細かく評価・説明を受け、子どもたちのアンケートや職員アンケート・ヒヤリングから見えてきた課題も伝えていただきました。子どもたちのアンケートは非常にわかりやすく数値化され、そこから職員の皆さんの頑張りをみる事が出来ました。同時に「学齢が上がるほど評価が厳しい傾向がみられる」という結果については真摯に受け止め、丁寧な対応を心掛けたいと思います。職員アンケートや2日間にかけて行われた職員ヒヤリングからはもう少し職員が提案等を言いやすい環境整備と全職員が経営に参加するという意識付けが大切であるという課題も頂きました。第三者評価を受け、評価機関との意見交換の場ともなったこの報告会の実施は私たちにとってもモチベーションを上げる良い機会となりました。これからも改善を図りつつ、子どもたちの最善の利益に繋がる支援をしていきたいと思っております。

同朋学園 園長 梅木 澄代

⑨第三者評価結果（別紙）

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】		
同朋福祉会は初代理事長が提唱した理念「人は大切、子は宝」に基づき、「人間尊重」と「子ども第一主義」に徹して、児童養護施設「同朋学園」のほか、神戸市内各所に幼保連携型こども園、保育園、小規模保育所、児童館を開設運営して、明日を支える子どもたちの健康な成長を育んでいます。理念・基本方針は確立していますが、子どもや家族等には強く表明することはしていないこともあって、周知は不十分です。学園理念の周知を図る取組が求められます。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
地域には、児童養護施設の入所定員を遥かに超える子育て支援ニーズが存在します。同朋学園では、来春完成予定の新施設において、従前から取り組んできたリフレッシュ事業や子育て相談事業を再開して、そうした地域の福祉ニーズに応えていくことが、社会福祉事業者としての使命であり、また同時に経営の健全化にもつながることと認識しています。ただそうしたニーズに係るデータを定量的に把握し、分析することが不十分です。具体的な取組みに反映するためにも、データ収集と分析が求められます。		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

来春に新施設が完成すると、7名×4ユニット、そして地域分散の2ホーム(各8人定員)の計44人定員となる予定で、それに向けての職員体制の確立を目指しています。小規模ユニット化や地域分散ホームそれぞれの職員の職務権限や管理体制、資質の向上や定着が課題となっています。中でも女性職員の定着が課題となっています。施設建て替え事業の過渡期において、すでに4か所のホームに分散運営する中で、様々な問題に直面しながら、徐々に体制の整備を進めているところで、PCネットワークシステム(以下「ナビシステム」という)の導入によって職員間の情報共有を図るなどの進展もあります。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

児童養護施設を取り巻く状況は、小規模ユニット化や地域分散だけではなく、里親支援機能の強化や、入所児童の養育・支援課題の重度化・多様化等々があり、これらに対応していく目標(ビジョン)は、養育・支援の質の向上と地域貢献の拡充にあります。同朋学園においても、そのような観点で、中長期計画には、職員(任せられる人材)の育成と処遇改善、健全な労務管理、そして地域貢献などのビジョンを明確にしていますが、課題解決に向けた実効性をもたせるには、計画のタイムテーブルや収支の裏付けなどの具体性が求められます。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

31年度事業計画では、建替え事業計画のほかには、①社会貢献活動(地域清掃など)、②子ども支援、③職員の資質向上、④ポジティブな声掛け(ようこそ・さきに・ありがとう)が示されています。それらは、前項の中長期ビジョンにも符合しており、実行可能な内容となっています。ただ、②③については漠とした大目標となっていて、単年度の期末に実施状況の客観的評価を行える目標値設定の明確化が求められます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

目下、最大の事業計画は施設の建替え事業です。どのような施設づくりを目指すかは、単なる箱作りではなく、10年20年先の同朋学園のあるべき姿の集約となるものですから、そこには多くの想いが込められているはずですが、しかしながら、多くの職員は、新施設の計画過程で意見表明などの参画の機会は少なく、どのような施設ができるかということについても、よく知らされていないようです。来春の完成までの間に、施設の生活環境・働く環境の検討に、多くの職員が主体的に関わる機会を設けて、想いを共有することが求められます。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

児童養護施設の特性上、学園の事業計画を子どもや保護者に周知して理解を促す機会は少なく、容易ではありません。同朋学園でも、学園の方針や学園での生活の様子などは、子どもの入所時に伝える程度に留まっています。しかしながら、事業計画に子どもや保護者の意見・要望を反映して、その満足度を高めていくことは重要であり、そうした意見・要望をくみ上げることを目的とした、計画周知の働きかけが強く求められます。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

入所児童の養育・支援課題が重度化・多様化する中で、職員の専門性と感性を高めることが急務となっています。同朋学園では、定期的に臨床心理士による職員研修を実施しており、子どもたちの内面的特性を理解することから、その支援力を高める取組が行われています。若い職員も、養成校では踏み込めなかった部分も、学園の中で子どもたちと向き合う中で気づき、育っていきます。園長・副園長・主任クラスによるSV(スーパーバイズ)も行われています。導入したナビシステムによって、経験や知見を共有する仕組みも進んでいます。ただ、養育・支援の実施内容について、これを客観的に評価する仕組みが不十分です。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

ナビシステムが導入され、養育・支援の状況やヒヤリハット等の情報が共有されて、職員相互の意識交流や啓発ができるようになってきました。そのことによって、少しずつですが、組織としてのまとまりや支援力の向上につながっていることは評価できます。ただ、システム上の交流というレベルですので、個々の情報を科学的に分析評価するという活用が不足しています。今後は、評価の基準を定めるとともに、評価の担当者を置くなどによって、ナビシステムが、情報共有というレベルから課題改善ツールとして有効に機能する仕組みに昇華することが求められます。また、この第三者評価を契機として、各評価項目の指摘事項や着眼点が求める内容を踏まえた取組の充実を期待します。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

園長は日々、卓越した行動力で職務実践に当たるとともに職員からの相談にも応じ、不在時の対応には副園長によるサポート体制を築いています。自らの役割りと責任については管理規定第4条で職務の具体内容を明示しています。また、年度事業計画書でも、法人の理念、基本方針に基づいた処遇信条を明示して、職員への理解を図っています。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

法令遵守については、法人のパンフレット「人は大切、子は宝」の基本方針の中で「社会ルール遵守(コンプライアンス)の徹底」が示されています。園長はその理解のもと、各行政関係機関をはじめ、取引業者等と適正な関係の保持に努めています。一方、職員への周知や理解についての取組が不十分と自己分析しています。職場内において実施する研修会だけでなく、職員どうしでの定期的な勉強会を奨めるなど、職場全体で法令遵守のレベルアップを図るよう期待します。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

同朋学園は子どもたちの養育・支援の質の現状を踏まえ「子どもたちにより良い環境を」と新しい同朋学園を目指し、園舎の全面建替え工事の真ただ中にあります。園長は何より建替え計画の実施に当っては、子どもたちの生活を守ることを第一に仮ホームの確保、職員の就業への配慮ならびに近隣への説明や理解を求めるなど、新園舎の完成に向け全力で指揮を執っています。さらに、養育・支援の質の向上については本年度の事業計画書では子どもたちの年層別に具体的な取組み（目標）を示しています。しかしながら、分散している各ホームに出向き現場の状況確認や職員の意見を聞き取りつつ、養育・支援の質の現状を把握して評価するなど、養育・支援の質の向上に欠かせない取組みは不十分です。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

園長は施設の将来性や継続性、経営資源の有効活用などについて、法人の共通課題として、常に意識しながら事業運営に当たっています。しかしながら、若い職員層は日々の職務に追われ「経営の改善や業務の実効性を高める」という難しいテーマに関心を持って踏み込めない現状が窺えます。まずは、「経営の改善や業務の実効性を高めるために」を身近に感じるように、例えば「私たちの職場、2～3年はどうなるのが良いのかな、そのために経営の改善ってどんなことなのか」と、置き換えて職員どうしで関心が持てるような意見交換会や検討会を実施して、それに園長はじめ副園長、主任も加わり、意識の共有化を図ることから始める取組みが大切です。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

福祉人材の確保及び採用については、天理教・白梅寮とのつながりで一定の確保は継続されています。他の新規採用については近年、兵庫県保育所・児童養護施設連絡協議会に参加してこれに関わる大学、専門学校との交流の機会から実習生や施設見学、アルバイト等を積極的に受入れ、2～3年先を見通した採用活動に当たっています。一方、育成、定着については副園長がスーパーバイザーとして新任・若手職員のOJTやメンタルサポートの側面支援に当たっています。また、園長は年2回、職員との懇談会・食事会を実施して就業上の問題や希望などの聞き入れに努めています。しかしながら、人材の確保及び育成、定着を一体化した明確な計画は整えられておらず、今後の主要課題となっています。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

同朋福祉会では、児童養護施設のほか、児童館、幼保連携型こども園、保育所、小規模保育施設など多くの事業を運営しており、各施設の管理職については法人としての人事考課制度がありますが、一般職員については、期待する職員像は示されていますが、人事考課制度の適用はありません。主任クラス以上については法人内異動もありますが、各事業所における人事は、その管理者に委ねられています。功績が認められる職員についての特別昇給や、ユニットリーダー研修受講職員の処遇改善が、役員会の決裁を経て認められていますが、明確で透明性のある人事基準の構築はできていません。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

職員の就業状況（有給休暇取得状況、時間外労働等の詳細を含む）の確認は前期から導入のナビシステムで行われています。働きやすい職場づくりについては園長、副園長が各職員に声がけてコミュニケーションを図ることや、就業上の問題はないかなど確認に当たっています。しかしながら、定期的でもなく面談の機会も不十分な状況となっています。メンター制度を取り入れるなど職場全体で活性化にもつながる労務管理に関する取組み方の再検討が必要です。

【注記】メンター：知識や経験の浅い後輩に、職務に関することや個人的なキャリアビジョンについて個別にサポートすること。（直属の上司とは限らない）

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員一人ひとりの育成は職場全体のレベルアップにつながる大切な取組みです。本園では目標の設定時において目標の項目、水準、期限について園長他管理者と職員一人ひとりとの面接を通じ、施設全体目標と個人の目標との整合性があるかどうかの確認や、設定した目標について進捗状況の確認、また、目標期限時の達成度の確認に至るプロセスが成されていないと窺えます。そのため職員一人ひとりの目標の焦点が不明確になってしまい、育成に向けた取組みの成果がはっきりしない状況となっています。ここでは、目標管理の在り方及び仕組みづくりの再検討が求められます。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

研修計画は年度事業計画書で示されています。また、期待する職員の人材像では「子どもの目線で物事を考え、信頼関係を築こうとする人」、職員に期待する事では「福祉職員としてのプロ意識」が明記されています。研修計画の内容は多岐に亘りますが、各職員は研修を受ける大切さを認識しています。今年度の計画ではコミュニケーション、コンプライアンス、虐待防止等を重点課題と設定しています。これらは福祉施設には必須のテーマです。各研修の実施予定や内容はナビシステムで共有していますが、その成果の確認や結果を踏まえて、次の計画に反映する等の取組は十分ではありません。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員一人ひとりの教育・研修については新任、中堅、ベテランと職員の経験や習熟度に配慮して実施されることとなりますが、そのためには年度計画で予めシフトを配慮し出来るだけ公平な機会を設定しておくことが望まれます。また、外部研修については情報提供を適切に行うとともに職員一人ひとりの希望に応へ、研修に参加出来るよう勤務時間の調整に融通がつくようバックアップ体制を整えられることが大切です。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受入れは、福祉人材を育成するという、社会福祉法人の使命の一つです。同朋学園では、学校とも連携して実効的なプログラムを整備して人材育成に取り組んでいます。また、実習生は実習体験を通して児童養護の養育・支援の道を職業として選択するケースもあり、将来の貴重な人材確保につながることも期待されています。それだけに、今後は指導者に対する研修を実施して実習効果をより高めるなど、より踏み込んだ取組が求められます。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。 <input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。 <input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。 <input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。 <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。 <input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】		
運営の透明性を担保する情報公開は、必要な内容が法人のパンフレット及びホームページでも詳細に公開されています。また、第三者評価の受審は継続して行われ、苦情・相談への体制も整えられています。苦情対応の詳細は、一般には公表されていませんが、第三者委員会へ報告されています。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
法人の基本姿勢として「事業運営の公明かつ適切な経営を」と明示され、これに基づき定期的に外部の専門家による監査及び内部監査も実施し、公正かつ透明性の高い経営が図られています。また、事務・経理・取引等に関する職務分掌は管理規程で示されており、担当職員はこれらに関するルールを理解し職務に当たっています。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 (児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】		
子どもと地域との交流を広げるための取組としては、年度事業計画書でその詳細が示されています。五毛天神子ども神輿、みのお祭り、児童館夏祭り等への協力参加を始め、子どもと一緒に毎月一回の地域清掃が実施されています。また、本園へ友人等が遊びに来やすい環境づくりについては、現在園舎の建替え工事のため一時休止は止むを得ない所です。子どもたち職員とも、完成後の再開を待ち望んでいます。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

ボランティア受入れマニュアルが備えられており、受付は主任が担当し、面接には園長が当たっています。兵庫県社協へボランティア受け入れ登録もされており、現在も積極的に受け入れています。具体的には「ヘアーカットボランティア」「琴教室」「絵手紙教室」等が実施されています。また、現在の中町ホームでは高三生が学習ボランティアを受け、受験準備の一助になっています。一方、ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点及び地域の福祉人材を育てるという観点からも、ボランティアに対しての必要な研修、支援の実施が当面の課題となっています。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

地域の関係機関・団体については、関係機関名及び連携記録がナビシステムに記述され共有されています。また、年度事業計画書では「子ども家庭センターとの関係」、「小・中・高等学校との関係」が示されています。この他、朋峰会（長峰中学校教諭と園職員との交流）、美野丘小学校との交流行事、神戸児童養護施設連盟での協働事業など、積極的に連携活動に取り組まれています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域の福祉ニーズ等を把握する取組みとしては、神戸市養護施設連盟の副会長の役を通して施設運営に関わる詳細な情報交換及び諸課題について検討協力に当たっています。この他、灘区篠原地区の民生委員の役も務め、地域での身近な福祉ニーズの把握に取り組んでいます。また、最近では「ふれあいまちづくり協議会」の相談役を担当し地域の皆さんとの交流活動に関わっています。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域に役立つ公益的的事业活動については園舎建替え工事前は旧園舎において育児相談会の実施や同朋児童センター、道ばた文庫（小図書館）等、地域の方々に利用してもらえるオープンスペースを提供していましたが工事中の現在は一時休止がやむを得ない状況です。新園舎完成後は復活される予定です。一方、地域貢献活動としては事業計画でも示され、毎月の地域清掃活動や全教一斉ひのきしんデー（天理教の教え：一日の働きをお供えする奉仕）、五毛天神子ども神輿、児童館夏祭りの協力等積極的に実施されています。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

法人の基本理念には「人は大切、子は宝」と掲げて、人間尊重と子ども第一主義が謳われています。その基本理念を果たす為の基本方針を定めています。また事業所の職員意識のなかにも、その方針は浸透しています。しかしながら子どもの尊重や基本的人権への配慮についての勉強会や研修が実施されていません。今後は施設内の勉強会や研修で、子どもの尊重や基本的人権についてより深く共通理解を持つようにすることを望みます。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【コメント】

児童養護施設の施設設置基準の基では居室の全個室化は難しく、一人一人の完全なプライバシー保護は事業所の努力範囲を超える困難な事項です。また現在施設の建て替え中の為、一部は仮のグループケアであることから子ども達のプライバシーを守ることがより困難な状況となっています。来年完成する新施設では、子ども達のプライバシーを保護出来るような取組を期待します

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

子どもやその保護者等に対しての情報は、ホームページやパンフレットで提供され、それらは毎年更新されています。入所予定の子どもやその保護者等には、事業所の担当者等が資料を持参して説明も行っていきます。現在までは見学希望者は無かった様ですが、希望があれば見学の態勢も整っています。今年度、大舎制から小舎制に移行するにあたり資料の見直しが行われた様ですが、それまでは資料等情報提供に付いての見直しは為されていませんでした。今後、定期的に資料の内容を確認して適切に修正等を行う取組も必要です。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

児童養護の制度の下では、入所決定の説明は児童相談所が行っており、子ども達や保護者等が主体的に選択することは難しい状況です。また、入所へ至る経緯もそれぞれの状況に因りますが、「子どもの保護」が第一優先とされる為、保護者等の同意を得るのは難しくなっています。入所決定後の養育・支援の内容に付いては、子どもや保護者等には適切な説明が行われているなど、児童養護制度の制約の中で施設として最大限の取組を行っていることは評価出来ます。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

養育・支援の内容変更や措置変更等が起きた場合は、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されています。引き継ぎに際しても関係部署と連携し、引き継ぎを行っていますが引き継ぎ文書等はありません。また退所後の相談等は、主にその退所者の元担当が対応しており元担当が離職した場合は、元担当の個人的な対応となり元担当の負担が増すばかりです。家庭支援相談部署等を設置するなどして、組織的な取組を確立する必要があります。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	
【コメント】		
各ホームでは月に1回子ども達も交えた「ホーム会議」が開かれ、子どもの意見を取り入れてホームでの生活全般について話し合われています。子ども達の個別の相談事も、ホームの担当者によって個別に行うこともあります。子どもの満足に関する調査は行われていますが、それは主に食事等の嗜好に関する調査のみで、日常生活における見えない不満や意見をくみ取る調査ではありません。定期的に子ども達の見えない不満を把握するアンケート等を実施して、その結果を組織的に分析・検討する取組を構築されることを望みます。		

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【コメント】		
苦情解決の体制は整備されており、記録も残されています。しかしそれらは近隣や保護者等のものであり、子どもの意見や要望は「ホーム会議」で取り上げられるだけで、苦情として扱われておりません。また苦情解決の仕組みを子ども達に解りやすく説明する掲示物や文書も有りません。苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等について、苦情を提出した子どもや保護者等に報告はされていますが、公開はされていません。		

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○
【コメント】		
担当職員は子どもの変化に気付くと声かけなど行い、子どもが意見を述べやすいように心がけています。ホームの形態もあり、相談や意見を述べやすいスペースも確保出来ています。しかしながら、子どもが相談したり意見を述べたりする際、複数の方法や相手を選ぶことをわかりやすく説明した文書も作成されていません。仮設ホームにおいて、意見箱の設置が途絶えていましたが、今回の第三者調査訪問時の指摘を受けて、ただちに設置されました。		

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

職員は日々の養育・支援の中で、子ども達が相談しやすく意見を述べやすいように配慮しています。また相談内容と意見を傾聴する姿勢も保たれていますし記録も行ってはいますが、記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等が整備されていません。今後は対応マニュアル等を整備して、組織全体で対応する仕組みが求められます。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

ヒヤリハット報告や事故発生報告は前年度から導入したナビシステムによって、全職員に共有されています。しかしながら、これらを基にした発生要因の分析や改善と、再発防止に向けた取組や研修が徹底出来ていません。また事故発生時の対応や安全確保に付いてのマニュアル等も整備されていますが、見直しがされてないようです。施設の建て替えに伴い、新施設の構造(小規模ユニット型)に準拠したマニュアルの見直しと共に、事故発生要因の分析と、改善、再発防止につなげるリスクマネジメント体制の構築を望みます。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

衛生推進者講習を受けた副園長が衛生管理の主導をしていますが、感染症対策についての責任と役割を明確にした管理体制は整っていません。また感染症発生マニュアルは定められていますが、それは普段事務所内に保管され、職員もそのことを周知していますが、ホームが分散している為直ぐに確認出来る状態ではありません。今後は感染症対策の管理体制を構築すると共に、各ホームにマニュアルを常備することを求めます。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

防災計画等は整備されており、防災時の対応体制も定められています。定期的な消防訓練や避難訓練も実施されています。災害時の備蓄も3日分確保され、在庫状況の管理も出ています。しかしながら、発災時における「事業継続計画」(BCP)は定められておらず、子ども及び職員の安否確認は職員の裁量に任されている状態です。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

個々の養育・支援については、ホーム会議、職員会議、ナビシステムによる情報共有等で適切に対応できています。しかしながら、標準的な支援の実施方法については、文書化もされておらず、職員間にも意識されていません。標準的な支援の実施方法とは、全ての支援を画一化することではなく、職員のレベルの差により支援の水準や内容に差異が出ないように、「最低限ここまでの支援を行きましょう」ということを文書化したものです。同朋学園においては、養育・支援の様々なテーマごとにマニュアルが策定されており、その様な意味では標準的な支援の実施方法が文書化されているものと評価出来ます。しかしながら、それらは事務所に保管されており、職員はいつでも閲覧することは出来ませんが、各ユニットに整備されていないので、日常的に目にする事は出来ません。今後は各ユニットに整備して、その実用性を高めると共に、そのマニュアルに定められた養育・支援が実施されているかどうか確認する仕組みが求められます。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

養育・支援の標準的な実施方法を各種マニュアルの最も基本的な部分と位置づけるならばその各種マニュアルは改訂履歴が明確ではありません。益々重度化、多様化する養育・支援の手法に「標準」を設定することは難しく、また「標準」ならば頻繁に確認、見直しをすることは無いと言う見解も理解できますが、だからこそ常に原則に立ち戻って見返すと言う姿勢が、養育・支援の質の向上に欠かせないものと認識することが重要です。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

「心理療法に基づいたアセスメントが実施され、子ども達一人ひとりの初期情報や養育・支援の経過と成果は詳細な記録が残されています。記録に基づいた個々の自立支援計画は各担当職員によって策定されており、職員会議やナビシステムによって共有化もされています。子供たちの状況によっては、策定責任者の下で職種横断的な合意の取組もなされていますが、「十分と思わない」とのコメントも頂きました。組織的に養育・支援の質を向上させるために、さらに踏み込んだ合議体制作りを期待します。」

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画は定期的に見直され、その経過や内容は記録に残されナビシステムで共有する仕組みも構築されています。緊急に見直す場合はケースカンファレンスを行っています。変更する場合の仕組みの整備が十分ではありません。また標準的な実施方法がありませんので、そこに反映する仕組みも出来ていません。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもに関する養育・支援の実施状況は定められたフォーマットで適切に記録されています。記録の共有も、昨年導入されたナビシステムによって出来るようになりました。ただ、職員は日々の養育に追われ、情報の確認まで時間が掛かることもあるそうです。また記録の記入の内容や書き方に付いて、施設内での研修等の指導が為されていません。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもに関する記録は、ナビシステムに保管され、個別にプリントアウトされた物も事務室の鍵付きロッカーに厳重に保管されています。ナビシステムのデータはクラウド管理され、ユーザーID及びパスワードが解らないと見ることが出来ないシステムとなっています。個人情報保護規定は職員達にも理解し遵守もしていますが、個人情報の取り扱いについて、子どもや保護者等への説明が為されていません。

内容評価基準（25項目） □

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

理念・基本方針には、人間尊重人権の尊重を掲げて、子どもの権利擁護を重要な課題としており、施設運営の規範が管理規定で取り上げられています。子どもに配布されている「権利ノート」は各ホームにファイルにて保管されて、職員が閲覧できるようになっているとともに、人権擁護チェックリストにより周知が図られています。子どもには「権利ノート」を活用して、権利擁護の説明はされていますが、十分な理解には至っていません。権利擁護に関する取組を具体的に検討する検討会議や、権利侵害の防止と早期発見のための、組織としての仕組みの構築が求められます。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	

【コメント】

現在、施設建て替えのため、4つの小グループに分散したホーム生活の中で、子どもたちは縦割り（年齢層に幅がある）の構成となっています。少人数の生活環境の中で、大舎制の時と比較して落ち着いた日々の暮らしが送られています。しかしながら、一部のホームでは子ども間の威圧的行為の横行や、不安定となる兆候は根絶していません。子どもに自身の権利意識を確立させる一方で、義務意識あるいは他者への思いやりを育むような、養育・支援をさらに進めることが求められます。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの生き立ちや家庭環境情報を詳細に記したフェイスシートが整備されており、事務所の鍵付きロッカーに保管されています。個人情報保護を守りつつ、情報は職員間で共有されています。子どもの成長に応じて、子どもと共にその生き立ちをふりかえり、子どもの心の動揺にも注意しながら慎重に対応しています。しかしながら、ケースごとにデリケートな事情も多く、子どもが素直に理解できる説明は難しい現状があります。また、職員の入れ替わりもあり、子どもの生き立ちの整理に空白を生じることもあるようで、今後は、情報の把握、整理、共有、そしてその伝え方について、組織としての取組の標準化が求められます。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

同朋学園では、「人は大切、子は宝」を理念として、子どもの権利擁護に取り組んでいます。子供には「権利ノート」を活用して自身が権利の主体であるという意識を育み、職員には就業規則等に行動規範を厳しく規定するとともに、人権擁護チェックリストを用いて、日々の養育支援の中で、不適切な対応の防止と早期発見、速やかな介入を実践しています。このように、職員による不適切な行為の抑制は厳しく行われていますが、子どもアンケートによれば、子ども間と思われる暴力に対する悩みを訴える声があります。そのようなことも見過ごすことなく迅速な介入と予防の取組が求められます。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

施設の建替え期にあつて、子どもたちは4つの仮設ホームに分散して生活をしています（うち2ホームは常設の地域分散型小規模児童養護施設）。少人数の子どもと職員の関係性と、子どもを縦割りに分散することによって、子ども一人ひとりと職員の距離が近く、子どもと職員の共生の意識が醸成されるなかで、子どもたちはより快適な生活を求めて、主体的な意思表示をしやすくなっています。職員も、これに応じて、余暇の過ごし方や金銭管理の面においても、子どもの自主性を尊重した養育・支援を行っています。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所、そして退所という生活の変化、それは子どもにとって大きな不安要因となります。同朋学園では、避けられない「変化」を、「出会う人・出会うことすべてに意味がある」とポジティブに捉え、そのマイナス面をできるだけ和らげる取組を実践しています。すなわち、入所時においては、子どもを暖かく迎え入れ、退所に備えては子どもの成長の記録に基づいたリービングケアの実施と、アフターケアの用意とその説明を徹底して、安心を与えています。退所後のフォローは、入所期間中の担当職員の力量に委ねられがちになっており、その負担が過度にならないよう助言していますが、子どもにとって園が実家と感じられるような、組織的な取組が求められます。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

施設建て替え期の仮設ホームで、小規模グループケアが実施されており、家庭環境に近い生活の中で、子どもたちは自然と自立に向けた生活習慣の習得がされています。高学年の子どもにはアルバイトを認めて社会への順応を支援し、職員によっては自己の実家へ子どもを一泊宿泊させるなども試みられています。退所後のフォローについては、いつでも相談できる窓口の用意があることを説明していますが、子どもはどうしても職員とのつながりに頼りがちになっています。園としては、関係機関とも連携してアフターフォローに努めていますが、退所者の情報を集約する仕組みが十分ではありません。来春完成する施設には、退所者が集える機会や場を設けて、職員や入所中の子どもたちとの交流が図れるような仕組みを期待します。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	<p>A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>

【コメント】

平成31年度事業計画に盛り込まれた処遇信条には、子どもの抱えている困難を共に担う姿勢が明記されています。職員は、定期的に臨床心理士による研修を受けて、様々な特性の子どもの心理を読み解く力を培いつつ、日々の養育支援にあたっています。そこで実践された支援の記録がナビシステムで共有され、職員相互の啓発や、中核職員によるSV（スーパーバイズ）が図られています。そうした取組の成果として、子どもたちの多くは、自身の気持ちを職員がよく理解してくれてると評価していることが、アンケート調査から読み取ることができます。今後は、ナビシステムの活用をさらに図り、職員間の専門性の交流と標準化を期待します。

②	<p>A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
---	---	--

【コメント】

子どもにとっての基本的欲求の充足は、なによりも信頼できる大人に大切にされているという安心感であり、不足のない衣食住の設えです。同朋学園では、施設建て替え中の過渡期にあっても十分な住環境と職員体制をもって、子どもの豊かな日常生活の営みを保障しています。ただ、ホームによっては、その構造上の制約があり、一人になれる場の確保や、プライバシーの保護に課題があります。新施設の完成に伴い、それらの問題が緩和されることを期待します。

③	<p>A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p><input type="checkbox"/>朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
---	---	---

【コメント】

少人数のグループケアの中で、職員は子どもに寄り添い、小さな失敗の積み重ねが「子どもが背負ってきた荷物を下ろし」、主体的に問題を解決する力を引き出すという観点で、その自主性を尊重して養育支援しています。大舎制の時に、設定していたルールもやや緩和され、各ホームごとに、その小集団の特性に応じた柔軟な工夫がとられています。ただ、大舎の時には職員間の配置に融通が利いたのに対し、小規模に独立したケアでは、子どもの特性や支援課題に配慮した職員配置に難しさがあり、苦慮しています。ケアグループの小規模化を進めてゆくうえで、総合的に「任せられる」職員のスキルアップを図ることが求められます。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

施設建て替え期において、男子の2グループは従前から実施していた地域小規模ホーム（北町ホーム、中町ホーム）、女子の2グループは建替え期間中に限定して借り上げたマンションの一世帯住戸（すみれ、さくら）を移用しています。前者は閑静な住宅街にあって十分な生活環境が提供されています。後者は、いわゆる外人住宅で、一般的なマンションに比して大規模な住空間ですが、大部屋にベッドを並べる仕様となっており、また縦割りの構成でもあるので、子どもの発達状況に応じた学びや遊びの場の保障という観点では問題があります。ハード面の制約はいかんともしがたいところがありますが、地域資源の活用などを期待します。また、新施設においては図書の充実などが求められます。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

小規模グループケアになり、大舎制の時に比して格段に家庭的な生活の営みの中で、子どもたちは親身に世話をしてくれる大人たちから自然と生活習慣を習得しています。30年度の実践報告では、ホームにおける生活ルールの設定とその周知の取組が報告されていますが、子どもたちのアンケート結果によれば、その意味の理解が十分には浸透していない様子がうかがえます。なお一層丁寧な対応が求められます。また、SNSに関する知識をつける支援は、子どもを守るという観点からも非常に重要な課題であり、より踏み込んだ取組を期待します

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

現在、施設建て替え中のため、プレハブの仮設厨房で調理が行われています。女子の2ホームは至近距離にあり、厨房から運ばれたものが直接に供されていますが、男子の2ホームは、やや遠隔なため半調理の上、各ホームで最終調理されています。調理担当職員は、各ホームからの検食日誌や記録を確認するとともに月1~2回は各ホームに出向いて様子を見る機会を心掛けています。嗜好調査が実施されるとともに、各ホームでの職員が把握した子どもの声は、メニューにも反映されており、子どもへのアンケート調査の結果からも、概ね満足していることがうかがえます。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

各ホームでの場面観察によって、子どもたちの着衣が適正であることが確認できました、その収納状態にも問題は見られません。同朋学園では、下着などの基本的衣類の供給とは別に、一定額の衣料費が設定されており、子どもの希望に応じて、自己表現ができるよう支援しています。ただ、子どもによっては、保護者等から得られる衣服その他嗜好品等の獲得状況に差があり、妬みやコンプレックスにつながることもあります。職員は工面して補填するなどの工夫を行っているため、大きな問題には至っていません。しかし、職員アンケートでは、なお心理的な動揺が隠せないとの報告もあります。難しい課題ですが、さらなる丁寧な対応を期待します。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

建て替え中の4ホームは4ホーム4様に住環境はそれぞれですが、一様にきれいに整美されています。元来、住宅であったものを利用していることもあり、家庭的で落ち着いた生活環境を構成していて、子どもたちに安全・安心を感じる場の提供がなされています。ただ、一部のホームでは、物理的な制約もあって、一人ひとりの学習機の配置や衣服、日用品の収納場所の確保も十分ではありません。かなりの多床室となっているホームもあり、子どもの年齢に応じた個人的な空間の確保にも問題があります。間もなく完成する施設では、完全個室ではありませんが、2人部屋×3と個室1の7人を基本ユニットとすることになっており、上記の問題が緩和されることを期待します。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

同朋学園では、長年連携してきた嘱託医があり、その協力を得て子どもたちの健康管理と適切な対応を図っています。子どもの健康状態や発育・発達状況および診療の記録は回診記録やナビシステムによって職員間で共有されています。児童養護施設では、入所児童の養育支援課題の多様化・重度化が著しいので、職員の専門性を高めることが急務となっていますから、今後は職員に対して医療や健康に関する学習機会を充実してゆくことが求められます。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

各ホームは男女別となっていますが、登校時等には異性に接する機会があり、子どもの年齢や発達の状況に応じて、性についての知識や理解を育むことが大切です。職員は、日々の養育支援の中で、いわゆるアームルールをわかまえることを伝えながら、こどもの疑問や不安にこたえています。しかしながら年齢層の幅のある縦割りの小グループに分散していることもあって、子どもたちにシステムの的な性教育を施すことはできていません。性被害にも性被害にも会いやすい子どもたちを守る意味でも、適切な性教育は必須です。縦割りの小グループであればこそ、職員の、性教育に関する知見と養育支援の専門性を高める必要があり、職員もそうした研修の受講を希望していますが、十分ではありません。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの問題行動への対応には、一人ひとりの生い立ちをふりかえって、その要因を読み解いていく必要があります。同期学園では、職員は臨床心理士による研修やカウンセリングを通じて、その専門性を高める努力をしています。また、小グループの処遇となつてからは、子どもとの距離も近く、親身に寄り添うことができ、子どもたちも小グループの生活が奏功して、従前の大舎制時代に比して落ち着いた生活を送ることができています。しかしながら、一部には、他の子どもに対して威圧的な言動を繰り返す事案も解消されていません。当然、心理セラピーも施されていますが難しいケースもあり、そのような場合には児童相談所や専門医療機関その他の関係機関とも協議して、措置変更も含めて事態改善の方策を見つけようとしています。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども間の暴力・暴言、いじめ等の発生防止については、子どものグループ構成に、子ども同士の関係性や特性に配慮しているほか、職員の専門性や経験値を勘案して職員配置に工夫をしています。小規模なグループケアになつて、大人(職員)同士にも協調性や相互信頼感が保たれ、それを子どもが日々の共生生活の中で感じ取れるようになったので、比較のおちついた生活を送ることができています。さらに施設長、副施設長、中核職員は協力して各ホームの状況をよく把握し、全職員が一丸となって適切な対応ができる体制に努めています。しかしながら、4ホームに分散している現状の中では、不十分なところもあり、さらなる取組の推進が求められます。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

同期学園では、非常勤の臨床心理士5名が配置され、必要な子どもに心理セラピーが施されています。また、直接支援職員が、日々の生活の中に子どもの心理を読み解く素養を持つことが肝要であるという見地から、ベテランの臨床心理士による職員研修が実施されています。子どものアセスメントや自立支援計画の策定においては、心理士も加わるほか、職員の日々の悩みにもカウンセリングを施しています。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

子どもの学力支援については、学校とも連携して、特に学力の低い子どもに対しての支援に取り組んでいます。障がいのある子どもについては特別支援学校への通学機会も設けています。しかしながら、一人ひとりの個別の学習環境の設えが十分ではありません。すみれ・さくらの女子ユニットは施設建て替え中の仮設ですが、北町ホーム、中町ホームについては、新施設完成後も地域分散小規模児童養護施設として残ることになりますから、その適切な環境整備が求められます。現在も一部のホームでは、学習ボランティアを導入したり、また市の補助を得て塾に通わせるなどの取組がありますが、これを施設全体に拡大することを期待します。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもの最善の利益に叶った進路の自己決定については、職員は判断材料となる資料・情報を収集・提供するほか、親、学校そして本人の意見を集約して自立支援計画に反映しています。学校中退や不登校の子どもについては、就労しながらの措置継続を行っています。また高校を卒業した後、進学を希望する子どもへの資金面、生活面、精神面の支援、就労する子どもの生活が不安定になる場合の措置延長にも取り組んでいます。しかしながら、進路決定後に失敗したり、行き詰まった場合の、再チャレンジに向けたフォローアップについては十分ではありません。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童養護施設では、子どもの自立支援計画における「進路の自己決定プロセス」と「社会経験の拡大」が主要課題であり、就労移行支援が眼目ではありませんので、No.3および4の着眼点については、就労に向けた研さん機会というよりも、アルバイトと同列に、子どもの社会適応能力の育成や金銭管理習慣の習得等が重要です。同朋学園では、高学年の子供には積極的にアルバイトにつかせることを奨励しています。その中から、子どもが自発的に特定の職業意識に目覚めたり、資格取得に意欲を持つように、さらなるエンパワメントを図る支援を期待します。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

同朋学園では家庭支援専門相談員（FSW）を2名配置しており、子ども家庭支援センターなど関係機関との連絡調整や、家族と子どもの信頼関係づくりを図っています。また、そうした取組の経過は、記録として保管されています。一方、家族からの相談等には専ら園長が対応していますが、FSWを中心とした組織的仕組みとしての体制の構築を期待します。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

同朋学園では、まずは子どもと家庭の分離によって、双方の生活の安定を図り、続けて、面会や一時帰宅を繰り返すなかで、その関係性を見極めつつ、自然な形で親子関係が再構築されることを目指しています。園長、副園長は児童相談所等関係機関とも密接に協議し、連携を図って家族支援にあたっていますが、配置されている家庭支援相談専門員（FSW）との職務分掌を明らかにして、FSWを中心とした組織的な体制の構築が求められます。